

ペットボトル風車 発電に興味津々



県認定マイスター・宇野さん

追子野木小で工作教室

黒 石

黒石市追子野木1丁目にある精密部品メーカーUNO（うの）の社長で、優れた技術者として県が認定している「あおもりマイスター」の一人、宇野禎倫さん（50）が22日、地元の追子野木小学校で、工作教室を行った。5年生32人がペットボトルを利用した風車作りに挑戦し、風の力でLED（発光ダイオード）ライトを光らせる風力発電を体験した。（相木麻季）

同社は、コイルだけで回転体を形成する小型コアレスモーターの開発・製造で知られ、鉄道模型や風力発電、遠隔操作ロボットなどに活用されている。子どもたちは、宇野さんの手ほどきで、500ミリのペットボトルに切れ目を入れ羽根

ペットボトル風車に扇風機の風を当てる子どもたちと宇野さん（右奥）

を作った後、LEDライトを取り付けた工作

用の小型モーターとゴムせんをつなげた部品を、ペットボトルの口に接続し、風車を仕上げた。

風車が、扇風機の風を受けて回り出し、LEDライトが赤く光る

と子どもたちは「おー、すーい」と歓声。羽根の角度や回転方向の違いで、点灯したりしなかつたりすることも分かり、うまく回るようそれぞれ改良を加えた。

三上綾菜さんは「こんな小さいモーターでも発電ができるのがすごいと思った」と感想を話していた。工作教室は学校側の

要請で初めて実現。宇野さんは「身近に開発型の企業があることを知ってもらいたい。マイスターとして人材育成に貢献できたら」と話していた。

2013年2月23日

東奥日報 朝刊